

男はだまって・・・・・・・・？



相馬和則*

「男は、だまってビール」このフレーズを聞いて懐かしいと思う方は、中年以降であり、若い人にはぴんとこないフレーズでないかと思う。1970年代のコマーシャルであり、私自身当時は、まだ、お酒を飲むではいけない年齢であったこともあり、コマーシャルの内容についての記憶はないが、このコピーだけは、なぜか、印象に残っている。

この時代には、寡黙に対して高い評価あるいは、憧れがあったように思われる。あるいは、黙っていても理解してもらえらる時代だったのだろうか。

慣用句にしても、「不言実行」、「巧言令色少なし仁」、「沈黙は金、雄弁は銀」等々、思いつくものは、言葉が多いことよりも、黙々と実施していくことを評価することが多いようである。

さて、翻って、現在は、どうだろうか？外に向かって説明しなければ、理解し合えない時代になってきているようである。

独立行政法人としても、その制度が導入された時のねらいのなかで、「透明性を高める観点から、財務諸表、中期計画・年度計画、評価委員会の評価結果、監査結果、給与の支給基準などを公表することとされています」（総務省HP政策評価・独立行政法人評価委員会から）とあるとおり、なにを目的として、どう行っているか等を、理解してもらおうかが、重要な課題となっている。

北海道開発土木研究所においても、ここで掲げられる中期計画、年度計画を公表するほか、中期計画の中で、次のように研究の成果の普及を図ることが掲げている。

技術の指導及び研究成果の普及として

- ・ 講演会、刊行物などによる普及
- ・ 論文の発表及び掲載
- ・ 寒地土木技術情報センターの開放
- ・ インターネットによる情報提供

・ 業務内容の情報公開、施設の一般公開等

当道路部では、積雪寒冷地における道路技術の向上を目指して、交通安全、道路構造、事業評価、冬期路面、吹雪対策、雪崩対策、道路情報（ITS）、舗装や道路施設の維持管理等に関する多くの研究課題に取り組んでいる。これらの研究成果については、土木学会を始めとして機会を捉え、発表に努めていることはもとより、講習会、ホームページ、Eメール等を活用しての情報提供を行っているところである。

さらに、昨年度からは、これらに加え、寒地道路セミナーを開始している。これは、寒地道路に関する様々な課題について、行政やコンサルタント等の技術者、また大学や他の研究機関の研究者の方々への情報提供と意見交換の場とするとともに、当道路部で実施している調査・研究のご紹介を行うことを目的とするものである。昨年度は、7月から8回開催し、おおむね好評をいただいている。

一方、仕事上土木に関連しない方への認知度をどう上げていくかが課題としてあると思われる。ホームページ、所内の一般公開、講演会、変わったところでは、構内の千島桜の公開等を実施している。

しかし、昨年度の独法見直し議論を見る限り、寒冷地土木技術の研究を行っている研究機関との認知度が高かったとは言えないと思われる。

ただ、昨年度の冬が全国的に厳しかったためか、本州方面においても凍結路面による事故が多く発生したが、そのような事故があった時、本州方面のマスコミから問い合わせがきており、当研究所が、寒冷地土木技術の研究を行っていることが、段々浸透してきているのではないかと考えている。

北海道開発土木研究所は、次年度からは、筑波にある土木研究所と一緒にすることになっている。研究成果の向上は勿論のこと、その成果のPRにもいままです以上に努めていきたいと考えている。

北海道開発土木研究所 道路部長*